

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	建築学科	夜・通信	2080 時間 (単位)	160 時間 (単位)	
	建築 CG デザイン学科	夜・通信	1920 時間 (単位)	160 時間 (単位)	
	空間デザイン学科	夜・通信	1792 時間 (単位)	160 時間 (単位)	
	住環境リノベーション学科	夜・通信	2048 時間 (単位)	160 時間 (単位)	
	土木工学科	夜・通信	2016 時間 (単位)	160 時間 (単位)	
	建設エンジニア学科	夜・通信	1888 時間 (単位)	160 時間 (単位)	
	ガーデンデザイン学科	夜・通信	2016 時間 (単位)	160 時間 (単位)	
	建築学科	①夜・通信	1312 時間 (単位)	90 時間 (単位)	
	建築デュアルシステム科	①夜・通信	1314 時間 (単位)	90 時間 (単位)	
	専科2級建築士科	夜・通信	1165 時間 (単位)	80 時間 (単位)	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/curriculum_list.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/officerlist.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社ケシオン 代表取締役	2017年4月1日～2022 年3月31日	広報
非常勤	川村公認会計士事務所 代表者	2017年4月1日～2022 年3月31日	財務
非常勤	株式会社関西企画 取締役	2017年4月1日～2022 年3月31日	法令順守
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>建築学科 昼間部 (2年制)、建築CGデザイン学科 (2年制)、空間デザイン学科 (2年制)、住環境リノベーション学科 (2年制)、土木工学科 (2年制)、建設エンジニア学科 (2年制)、ガーデンデザイン学科 (2年制) 建築学科 夜間部 (2年制)、建築デュアルシステム科 (2年制) 専科2級建築士科 (1年制)</p> <p>【作成について】 カリキュラム(授業科目及び内容)および授業計画(シラバス)については、授業評価アンケートや教育課程編成委員会の意見をもとに教員会議・科会を経て、科長・事務局長会議から、カリキュラムの設定・授業内容についての検討や検証をもとに、各授業を担当する科目主任教員と各学科長が授業計画(シラバス)を作成する。</p> <p>授業計画(シラバス)は統一した様式で作成する。授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画(各回の授業プラン)、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。</p> <p>【時期について】 次年度の授業計画(シラバス)は12月～1月に科目主任教員と各学科長が作成している。3月中旬に、次年度分のシラバスをHPに公開する。</p>	
<p>建築学科 (昼)</p>	
<p>授業計画の公表方法</p>	<p>講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_architecture.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_architecture_syllabus.pdf</p>

建築CGデザイン学科	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_cg.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_cg_syllabus.pdf
空間デザイン学科	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_space.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_space_syllabus.pdf
住環境リノベーション学科	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_renovation.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_renovation_syllabus.pdf
土木工学科	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_civil.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_civil_syllabus.pdf
建設エンジニア学科	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_engineer.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_engineer_syllabus.pdf
ガーデンデザイン学科	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_garden.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_garden_syllabus.pdf

建築学科（夜）	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_architecture_night.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_architecture_night_syllabus.pdf
建築デュアルシステム科	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_dual.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_dual_syllabus.pdf
専科 2 級建築士科	
授業計画の公表方法	講義要項 https://www.syusei.ac.jp/course/pdf/dept_architec.pdf シラバス https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/dept_architec_syllabus.pdf

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

- (1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。
- (2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

(注)

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。
なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

G P Aの「総合評価表」は、次のとおりとする。

GPA	総合評価
4.00	大変優秀な成績
3.00	優秀な成績
2.50	良好な成績
2.00	努力が必要
1.00	より一層の努力が必要

(1) G P Aの表記と計算

GPAは、GPA総合評価表に基づき、それぞれの科目に評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じた積の合計を、履修登録科目の総単位数で除して算出し小数点第2位まで表記する。(小数点第3位を四捨五入)

GPAは、学業成績簿につぎの2種類の方法で算出した数値を表記し運用する。

- ① T-GPA (総累計) : 入学後からこれまで履修登録した科目の成績を基礎数値として算出
- ② Y-GPA (当該年度) : 各年度に履修した科目の成績のみを基礎数値として算出

(2) GPAの計算式は次のとおりとする。

$$GPA = \frac{GP \times \text{当該科目単位数の総和}}{\text{履修登録科目の総単位数}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.syusei.ac.jp/jyoho/system.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 進級・卒業の基準は、次のとおりとする。</p> <p>本校は、「国土建設に貢献する有能な建設技術者を養成する」ことを理念にディプロマ・ポリシーに示すスタンス（姿勢）・スキル（能力）を有する人材養成に取り組んでいる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 第1本科（昼）建築学科・建築CGデザイン学科・空間デザイン学科・住環境リノベーション学科・土木工学科・建設エンジニア学科・ガーデンデザイン学科、第2本科（夜）建築学科・建築デュアルシステム科の学生は、卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。 <p>なお本校のディプロマ・ポリシーは、 (https://www.syusei.ac.jp/about/about01.html) である。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/system.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/balance-sheet.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/cash-flow.html
財産目録	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/property_inventory.pdf
事業報告書	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/business-report_h30.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/audit-report.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第1本科（昼） 建築学科	平成6年文 部省告示第 84号	なし		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 1728 単位時間/単位	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼		1527 単位 時間/単位	777 単位 時間/単位	304 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			2608 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
360人	383人	24人	22人	34人	56人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 効率よく二年間という短期間で、建築士に求められる知識と技術を修得。カリキュラムは、演習と実習に重点を置き、社会に即応できる高度な設計・製図の技術を学ぶほか、実務に欠かせないコンピューターの知識と技術を習得。卒業後の二級建築士の試験に備えた学習や建築業界の即戦力となる能力を身につける。
成績評価の基準・方法
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

- (1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。
- (2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

(注)

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただしGPAの算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。
なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)

進級・卒業の基準は、次のとおりとする。

1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

分類	要件		当該学年取得単位数・時間数			
	卒業必要単位数・時間数		1年次		2年次	
	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
必修専門教育科目	64	1376	34	736	30	640
選択専門・全科共通基礎専門科目	20	352	10	160	10	192
合計	84	1728	44	896	40	832

2. 1学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。
3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。
ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。
4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。

学修支援等

(概要)

入学前に行う事前授業やパソコン入門講座の他、入学直後に基礎力リサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。キャンパスライフが充実するようガツプロジェクト(学科間、学年間交流をはかるクラブ活動)なども行っている。

学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員(心理カウンセラー)がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与や授業料減免をして教育を受ける機会を与える。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																								
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																					
202人 (100%)	57人 (28%)	143人 (70%)	2人 (0.9%)																					
（主な就職、業界等） 大和ハウス工業(株)、タマホーム（株）、高松建設(株)、住友不動産（株） (株)長谷工リフォーム、(株)ジェイアール西日本ビルト、(株)アーネストワン																								
（就職指導内容） 進路選択として、「就職」「専科進学」「大学への編入学」が主なものとなる。進路に関わる事項は、事務局進路担当者とクラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。 教職員・学校が一丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。																								
（主な学修成果（資格・検定等））																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター（2級）</td> <td>81</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>建築CAD検定（3級）</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>カラーコーディネーター（2級）</td> <td>13</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>宅地建物取引士</td> <td>20</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>建築積算士補</td> <td>193</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>2級建築施工管理技術検定試験（学科）</td> <td>85</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	受験者数	合格者数	福祉住環境コーディネーター（2級）	81	17	建築CAD検定（3級）	7	1	カラーコーディネーター（2級）	13	4	宅地建物取引士	20	4	建築積算士補	193	137	2級建築施工管理技術検定試験（学科）	85	8
資格・検定名	受験者数	合格者数																						
福祉住環境コーディネーター（2級）	81	17																						
建築CAD検定（3級）	7	1																						
カラーコーディネーター（2級）	13	4																						
宅地建物取引士	20	4																						
建築積算士補	193	137																						
2級建築施工管理技術検定試験（学科）	85	8																						
（備考）（任意記載事項）																								

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
419人	38人	9%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情、進路変更、一身上の都合		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第1本科（昼）建築CGデザイン学科	平成6年文部省告示第84号	なし		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1792 単位時間/単位	1594 単位 時間/単位	710 単位 時間/単位	304 単位 時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2608 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	53人	10人	9人	12人	21人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>CAD や CG の基礎的な操作方法から、建物や空間をアレンジする手法、自分のイメージをコンピューターで自在に表現できるスキルまでを修得する。建築CAD検定、インテリア設計士、商業施設士補、パース検定などの資格取得を目指す。今後、建設業界で普及するBIM（建築物の3次元モデル）の特別講座も開講している。</p>					
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>試験について</p> <p>本試験は、前期末と後期末に行う。</p> <p>各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。</p> <p>再試験・追試験を実施する場合がある。</p> <p>学業成績評価の基準</p> <p>学業成績の評価は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。</p> <p>(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。</p>					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
<p>（注）</p> <p>1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただしGPAの算定においては不可を含める。</p> <p>2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。</p> <p>なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。</p>					
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級・卒業の基準は、次のとおりとする。</p> <p>1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。</p>					

分類	要件	卒業必要単位数・時間数		当該学年取得単位数・時間数			
				1年次		2年次	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
必修専門教育科目		69	1504	37	800	32	704
選択専門・全科共通基礎専門科目		16	288	8	128	8	160
合計		85	1792	45	928	40	864

- 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。
- 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。
ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。
- 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。

学修支援等

(概要)

入学前に行う事前授業やパソコン入門講座の他、入学直後に基礎力リサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト(学科間、学年間交流をはかるクラブ活動)なども行っている。学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員(心理カウンセラー)がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与や授業料減免をして教育を受ける機会を与える。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	5人 (27%)	13人 (72%)	0人 (%)

(主な就職、業界等)

日本住宅(株)、敷島住宅(株)、シード平和(株)、(株)谷工務店、(株)ナカノフドー建設、(株)デュー・ワークスタジオ

(就職指導内容)

進路選択として、「就職」「専科進学」「大学への編入学」が主なものとなる。進路に関わる事項は、事務局進路担当者とクラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。教職員・学校が一丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。

(主な学修成果(資格・検定等))

資格・検定名	受験者数	合格者数
建築 CAD 検定 3 級	21	12
インテリア設計士 2 級	7	3
福祉住環境コーディネーター検定 3 級	10	1
カラーコーディネーター検定 3 級	6	1
パース検定 2 級	6	5
建築積算士補	19	9
ビジネス能力検定 (B 検) 3 級	4	4

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	2 人	4%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、進路変更、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第1本科（昼）空間デザイン学科	平成17年文部科学省告示第176号	なし		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1760 単位時間/単位	1563 単位 時間/単位	613 単位 時間/単位	304 単位 時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2480 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	111人	16人	14人	17人	31人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>あらゆる空間をデザインする創造力と、それを提案する表現力を持った、空間設計のプロフェッショナルを育てる。表現や製図の基礎練習からはじまる授業を通じた建築の専門知識・技術の修得に加えて、家具や照明、インテリアや色彩、プレゼンテーションといった専門スキルを学び、空間デザインの幅広い分野で活躍できる能力を養う。パス検定やインテリア設計士、商業施設士、インテリアコーディネーターなど各種資格の取得を目指す。</p>					
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>試験について</p> <p>本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。</p> <p>学業成績評価の基準</p> <p>学業成績の評価は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。</p> <p>(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。</p>					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
<p>（注）</p> <p>1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。</p> <p>2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。</p>					

卒業・進級の認定基準							
(概要)							
進級・卒業の基準は、次のとおりとする。							
1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。							
分類	要件	卒業必要単位数・時間数		当該学年取得単位数・時間数			
		単位数	時間数	1年次		2年次	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
必修専門教育科目		71	1568	39	864	32	704
選択専門・全科共通基礎専門科目		11	192	4	64	7	128
合	計	82	1760	43	928	39	832
2. 1学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。							
3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。							
4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。							
学修支援等							
(概要)							
入学前に行う事前授業やパソコン入門講座の他、入学直後に基礎力リサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト(学科間、学年間交流をはかるクラブ活動)なども行っている。学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員(心理カウンセラー)がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与や授業料減免をして教育を受ける機会を与える。							

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
58人 (100%)	11人 (19%)	42人 (72%)	5人 (8%)
(主な就職、業界等) (株)アキュラーホーム、東レ建設(株)、(株)ハウステック、(株)大阪田建 (株)ホームライフ、(株)スズホーム			
(就職指導内容) 進路選択として、「就職」「専科進学」「大学への編入学」が主なものとなる。進路に関わる事項は、事務局進路担当者とクラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。 教職員・学校が丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。			

(主な学修成果 (資格・検定等))

資格・検定名	受験者数	合格者数
インテリア設計士 2 級	15	9
カラーコーディネーター検定 3 級	27	18
パース検定 2 級	18	11
インテリアデザイン技能検定	2	2
商業施設士	3	3
建築 CAD 検定 2 級	2	1
福祉住環境コーディネーター検定 2 級	25	2
建築積算士補	58	41

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
108 人	5 人	4%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、進路変更、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第1本科(昼)住環境リノベーション学科	平成26年文部科学省告示第6号	なし		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2048 単位時間/単位	1462 単位 時間/単位	682 単位 時間/単位	336 単位 時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2480 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	63人	2人	9人	9人	18人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)					
(概要) 工事管理者として、品質管理、安全管理、工程管理、施工計画、予算、施工図を理解する為に、実習・実験・測量・現場見学などの実践教育を通じて、2級建築施工管理技士・二級建築士に必要な知識を中心に修得するとともに各種資格を取得し、企業で活躍できる人材を養成する。					
成績評価の基準・方法					
(概要) 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 (1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 (2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
(注) 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただしGPAの算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					
卒業・進級の認定基準					
(概要) 進級・卒業の基準は、次のとおりとする。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。					

分類	要件		当該学年標準取得単位数・時間数			
	卒業必要単位数・時間数		1年次		2年次	
	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
必修専門教育科目	91	2048	47	1056	44	992
選択専門・全科共通基礎専門科目	0	0	0	0	0	0
合計	91	2048	47	1056	44	992

2. 1学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。
3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。
ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。
4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。

学修支援等

(概要)

入学前に行う事前授業やパソコン入門講座の他、入学直後に基礎力リサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト(学科間、学年間交流をはかるクラブ活動)なども行っている。

学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員(心理カウンセラー)がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与や授業料減免をして教育を受ける機会を与える。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
33人 (100%)	4人 (12%)	29人 87%)	0人 (%)												
（主な就職、業界等） 鉄建建設（株）、大末建設（株）、（株）熊谷組、（株）浅川組、（株）金山工務店 但南建設（株）															
（就職指導内容） 進路選択として、「就職」「専科進学」「大学への編入学」が主なものとなる。進路に関わる事項は、事務局進路担当者とクラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。 教職員・学校が一丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。															
（主な学修成果（資格・検定等））															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理技術検定試験（学科）</td> <td>51</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>左官技能士3級</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>建築積算士補</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	受験者数	合格者数	2級建築施工管理技術検定試験（学科）	51	12	左官技能士3級	14	14	建築積算士補	9	6
資格・検定名	受験者数	合格者数													
2級建築施工管理技術検定試験（学科）	51	12													
左官技能士3級	14	14													
建築積算士補	9	6													
（備考）（任意記載事項）															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54人	1人	1%
（中途退学の主な理由） 家庭の事情、進路変更、一身上の都合		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第1本科(昼) 土木 工学科	平成6年文 部省告示第 84号	なし		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1728 単位時間/単位	1732 単位 時間/単位	364 単位 時間/単位	312 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			2408 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		62人	6人	7人	8人	15人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)					
(概要) 建設事業の管理業務全般について、実務主体の専門技術教育を行い、企画・設計・計画・プレゼンテーション並びに現場環境等をいち早く把握し、さまざまな問題に対応できる現場管理者を養成する。					
成績評価の基準・方法					
(概要) 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。					
(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。					
(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
(注) 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただしGPAの算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					
卒業・進級の認定基準					
(概要) 進級・卒業の基準は、次のとおりとする。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。					

分類	要件	卒業必要単位数・時間数		当該学年取得単位数・時間数			
				1年次		2年次	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
必修専門教育科目		61	1184	38	736	23	448
選択専門・全科共通基礎専門科目		29	544	7	192	22	352
合計		90	1728	45	928	45	800

- 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。
- 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。
ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。
- 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。

学修支援等

(概要)

入学前に行う事前授業やパソコン入門講座の他、入学直後に基礎力リサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト(学科間、学年間交流をはかるクラブ活動)なども行っている。学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員(心理カウンセラー)がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与や授業料減免をして教育を受ける機会を与える。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28人 (100%)	1人 (3%)	27人 (96%)	0人 (%)

(主な就職、業界等)

奥村組土木興業(株)、古久根建設(株)、大林道路(株)、飛鳥建設(株)、中井商工(株)、(株)昭建

(就職指導内容)

進路選択として、「就職」「大学への編入学」が主なものとなる。進路に関わる事項は、事務局進路担当者クラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。教職員・学校が一丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。

(主な学修成果 (資格・検定等))

資格・検定名	受験者数	合格者数
土木施工管理技術検定実地試験 2 級	4	4
土木施工管理技術検定学科試験 2 級	30	23
測量士補	21	5
ビジネス能力検定 (B 検) 3 級	2	2

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	4 人	6%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、進路変更、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第1本科（昼）建設エンジニア学科	平成20年文部科学省告示第11号	なし		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1728 単位時間/単位	1199 単位時間/単位	545 単位時間/単位	534 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2278 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	29人	0人	6人	6人	12人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>土木分野の中でも施工に特化し、特に建設機械のオペレータとしての技能を「産学協同」教育で習得。さらに建設現場にて職長・安全衛生責任者等として建設事業の調査、設計、施工、監督・検査、維持管理という建設生産プロセスのうち「施工」に注目して情報化施工に即応できる技術者を養成。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>試験について</p> <p>本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。</p> <p>学業成績評価の基準</p> <p>学業成績の評価は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。</p> <p>(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。</p>					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
<p>（注）</p> <p>1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただしGPAの算定においては不可を含める。</p> <p>2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。</p>					

卒業・進級の認定基準							
(概要)							
進級・卒業の基準は、次のとおりとする。							
1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。							
分類	要件	卒業必要単位数・時間数		当該学年取得単位数・時間数			
		単位数	時間数	1年次		2年次	
必修専門教育科目		70	1568	41	896	29	672
選択専門・全科共通基礎専門科目		9	160	2	32	7	128
合計		79	1728	43	928	36	800
2. 1学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。							
3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。							
4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。							
学修支援等							
(概要)							
入学前に行う事前授業やパソコン入門講座の他、入学直後に基礎力リサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト(学科間、学年間交流をはかるクラブ活動)なども行っている。学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員(心理カウンセラー)がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与や授業料減免をして教育を受ける機会を与える。							

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状態を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (%)	15人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等)			
(株)宮本組、(株)山崎建設、日興建設(株)、(株)田村組、(株)森下組、(株)吉川組			
(就職指導内容)			
進路選択として、「就職」「大学への編入学」が主なものとなる。進路に関わる事項は、事務局進路担当者とクラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。教職員・学校が一丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。			

(主な学修成果 (資格・検定等))

資格・検定名	受験者数	合格者数
土木施工管理技術検定学科試験 2 級	16	13
測量士補	12	1

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34 人	4 人	11%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、進路変更、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第1本科(昼) ガーデンデザイン学科	平成17年文部科学省告示第32号	なし		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1728 単位時間/単位	1635 単位時間/単位	363 単位時間/単位	410 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2408 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	43人	7人	5人	7人	12人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																								
<p>(概要)</p> <p>緑化造園分野における、設計・積算から施工、施工管理、維持管理の基礎を学ぶと共に、園芸・ガーデニングをはじめ、都市緑化、環境緑化、園芸療法までを視野に入れた幅広い知識と技術を修得。カリキュラムは現地見学、野外実習、産・官・民と連携した実践教育を取り入れ、社会に出て即戦力となるデザイン・創造力・実行力・コミュニケーション能力を伴ったガーデンデザイナーの育成を目指す。また、造園施工管理技士や造園技能士を目指す資格取得対策講座を実施している。</p>																								
成績評価の基準・方法																								
<p>(概要)</p> <p>試験について</p> <p>本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。</p> <p>学業成績評価の基準</p> <p>学業成績の評価は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。</p> <p>(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th colspan="2">優</th> <th>良</th> <th>可</th> <th>不可</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点数等</td> <td>100～90</td> <td>89～80</td> <td>79～70</td> <td>69～60</td> <td>59～0</td> </tr> <tr> <td>GP</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合否</td> <td colspan="4">合格</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただしGPAの算定においては不可を含める。 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。 	成績評価	優		良	可	不可	点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	GP	4	3	2	1	0	合否	合格				不合格
成績評価	優		良	可	不可																			
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0																			
GP	4	3	2	1	0																			
合否	合格				不合格																			

卒業・進級の認定基準							
(概要)							
進級・卒業の基準は、次のとおりとする。							
1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。							
分類	要件	卒業必要単位数・時間数		当該学年標準取得単位数・時間数			
		単位数	時間数	1年次		2年次	
				単位数	時間数	単位数	時間数
必修専門教育科目		70	1600	36	800	34	800
選択専門・全科共通基礎専門科目		6	128	3	64	3	64
合 計		76	1728	39	864	37	864
2. 1学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。							
3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。							
4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。							
学修支援等							
(概要)							
入学前に行う事前授業やパソコン入門講座の他、入学直後に基礎力リサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト(学科間、学年間交流をはかるクラブ活動)なども行っている。学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員(心理カウンセラー)がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与や授業料減免をして教育を受ける機会を与える。							

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (100%)	0人 (%)	21人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等)			
近鉄造園土木(株)、阪神園芸(株)、(株)タカショー、東洋グリーン(株)、(株)ウエシン、(株)グリーンライフ			
(就職指導内容)			
進路選択として、「就職」「大学への編入学」が主なものとなる。進路に関わる事項は、事務局進路担当者とクラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。教職員・学校が一丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。			

(主な学修成果 (資格・検定等))

資格・検定名	受験者数	合格者数
造園施工管理技術検定学科試験 2 級	21	19
造園技能士 2 級	4	2
造園技能士 3 級	19	11
ビジネス能力検定 (B 検) 3 級	1	1

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42 人	0 人	%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、進路変更、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第2本科(夜)建築学科	平成6年文部省告示第84号	なし		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜	1712 単位時間/単位	1454 単位 時間/単位	434 単位 時間/単位	352 単位 時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2240 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		64人	0人	15人	3人	18人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)					
(概要) 二年間で、建築に必要な知識と技術を修得する。二級建築士の資格取得を目標に置いた学習をベースに、実学重視のカリキュラムで授業を展開。あらゆる角度から総合的に建築を学ぶ。また、実務に欠かせない IT 関連の授業を展開。					
成績評価の基準・方法					
(概要) 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。					
(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。					
(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
(注) 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					

卒業・進級の認定基準						
(概要)						
進級・卒業の基準は、次のとおりとする。						
1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。						
分類	要件	卒業必要単位数・時間数		当該学年取得単位数・時間数		
		単位数	時間数	1年次		2年次
				単位数	時間数	単位数 時間数
必修専門教育科目		72	1440	40	800	32 640
選択専門・全科共通基礎専門科目		10	272	2	80	8 192
合計		82	1712	42	880	40 832
2. 1学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。						
3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。						
4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。						
学修支援等						
(概要)						
入学前に行う事前授業やパソコン入門講座の他、入学直後に基礎力リサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト(学科間、学年間交流をはかるクラブ活動)なども行っている。学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員(心理カウンセラー)がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与や授業料減免をして教育を受ける機会を与える。						

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (%)	18人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等)			
(株) 吉村建築設計事務所、(株) 邦木木材店、(有) スペースプラン、末吉工務店、(有) 大和設備、泉北ホーム (株)			
(就職指導内容)			
進路選択として、「就職」「専科進学」「大学への編入学」が主なものとなる。進路に関わる事項は、事務局進路担当者とクラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。教職員・学校が一丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。			

(主な学修成果 (資格・検定等))

資格・検定名	受験者数	合格者数
福祉住環境コーディネーター検定2級	3	1
インテリアデザイン技能検定	11	10
建築施工管理技術検定学科試験2級	4	3
カラーコーディネーター検定2級	1	1
建築積算士補	18	13

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47人	2人	4%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情、進路変更、一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第2本科(夜)建築デュアルシステム科	平成6年文部省告示第84号	なし		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜	1896 単位時間/単位	1409 単位 時間/単位	511 単位 時間/単位	712 単位 時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2632 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	0人	0人	15人	5人	20人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																								
<p>(概要)</p> <p>建築業界が求める即戦力志向に対応するために、学校での授業・実習に加え、企業で「現場」を体験しながら社会に即応できる能力を養っていく。</p>																								
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>試験について</p> <p>本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。</p> <p>学業成績評価の基準</p> <p>学業成績の評価は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。</p> <p>(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th colspan="2">優</th> <th>良</th> <th>可</th> <th>不可</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点数等</td> <td>100～90</td> <td>89～80</td> <td>79～70</td> <td>69～60</td> <td>59～0</td> </tr> <tr> <td>GP</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合否</td> <td colspan="4">合格</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。 	成績評価	優		良	可	不可	点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	GP	4	3	2	1	0	合否	合格				不合格
成績評価	優		良	可	不可																			
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0																			
GP	4	3	2	1	0																			
合否	合格				不合格																			

卒業・進級の認定基準							
(概要)							
進級・卒業の基準は、次のとおりとする。							
1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。							
分類	要件	卒業必要単位数・時間数		当該学年取得単位数・時間数			
		単位数	時間数	1年次		2年次	
				単位数	時間数	単位数	時間数
必修専門教育科目		59	1152	31	608	28	544
選択必修専門教育科目		13	520	3	120	10	400
選択専門・全科共通基礎専門科目		10	224	5	96	5	128
合計		82	1896	39	824	43	1072
2. 1学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。							
3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかつた場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。							
4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。							
学修支援等							
(概要)							

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	第1本科(昼) 専科2級建築士科	なし	なし		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1328 単位時間/単位	0 単位時 間/単位	1328 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			1328 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	67人	0人	2人	4人	6人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)					
(概要)					
<p>授業は、最大の目標である「二級建築士試験合格」に向けて、効率よく集中的に実施する。独自のカリキュラムと繰り返し行う毎授業の小テスト・確認テスト・模擬テストで、確実に実力をつける。弱点を知り、克服していく。例年、全国の合格率を大幅に上回っている。</p>					
成績評価の基準・方法					
(概要)					
試験について					
<p>本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。</p>					
学業成績評価の基準					
学業成績の評価は、次のとおりとする。					
(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。					
(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
(注)					
1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。					
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					
卒業・進級の認定基準					
(概要)					
卒業の基準は、次のとおりとする。					
1. 出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、卒業することができない。					
2. 一部科目を修得できず卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講または希望すれば全科目の再受講することができる。					

学修支援等
(概要) 入学直後に基礎カリサーチやアンケートを実施し、学生の状況をカルテ化する。先生全員で共有し、指導に活かせる。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。 修学の熱意があるが、経済的理由により授業料の納入が困難かつ学業成績優秀な者に対して奨学金の貸与をして教育を受ける機会を与える。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
77人 (100%)	2人 (2%)	70人 (90%)	5人 (6%)
(主な就職、業界等) (株)浅沼組、大豊建設(株)、(株)池下設計、(株)新都計画、(株)婦木建築設備設計事務所、(株)オリエントホーム、(株)黒田建築設計事務所、(株)阿波設計事務所			
(就職指導内容) 進路に関わる事項は、事務局進路担当者とクラス担任者が中心となり、すべては学生一人ひとりの未来のために、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。 教職員・学校が一丸となって、在校生の進路サポートを行う姿勢と、成果として進路決定率100%を目指している。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名		受験者数	合格者数
二級建築士		78	43
2級建築施工管理技術検定試験(学科)		18	3
カラーコーディネーター(2級)		2	1
福祉住環境コーディネーター(2級)		4	2
建築積算士補		10	9
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80人	1人	1%

<p>(中途退学の主な理由) 一身上の都合</p>
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。</p>

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
第1本科 (昼) 建築学科	150,000 円	1,000,000 円	50,000 円	
建築CGデザイン学科	150,000 円	1,000,000 円	50,000 円	
空間デザイン学科	150,000 円	1,000,000 円	130,000 円	
住環境リノベーション学科	150,000 円	1,000,000 円	50,000 円	
土木工学科	150,000 円	1,000,000 円	180,000 円	
建設エンジニア学科	150,000 円	1,000,000 円	50,000 円	
ガーデンデザイン学科	150,000 円	1,000,000 円	50,000 円	
第2本科 (夜) 建築学科	100,000 円	470,000 円	35,000 円	
第2本科 (夜) 建築デュアルシステム科	100,000 円	470,000 円	35,000 円	
第1本科 (昼) 専科2級建築士科	120,000 円	750,000 円	50,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
特待生制度 (建設分野のコンクール等受賞、成績優秀者)、授業料減免制度 (生活保護世帯、市町村民税所得割額が非課税、家計急変など)、創立110周年記念奨学金、修成建設専門学校緊急奨学金				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/hyoka_h30.html		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 委員会が、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果を公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色のある学校づくりを進める。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
卒業生の保護者	2019年4月1日～ 2021年3月31日	保護者
在校生の保護者	2019年4月1日～ 2021年3月31日	保護者

元 吹田市理事	2019年4月1日～ 2021年3月31日	団体役員
株式会社ジェイネット 代表取締役	2019年4月1日～ 2021年3月31日	企業等委員
浅川道路株式会社 代表取締役	2019年4月1日～ 2021年3月31日	企業等委員
おおさか緑と樹木の診断協会 理事	2019年4月1日～ 2021年3月31日	企業等委員
大和田連合振興町会長	2019年4月1日～ 2021年3月31日	地域役員
興国学園 興國高等学校 教頭	2019年4月1日～ 2021年3月31日	教育関係者
学校法人修成学園 評議員	2019年4月1日～ 2021年3月31日	学園関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/appraisal_h30.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		
https://www.syusei.ac.jp/jyoho/daisansha.html		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.syusei.ac.jp/
--